

# 同窓会誌

67



カラーグラビア① 「我が母校 教育学部は今—学生の学びと教育施設—」

カラーグラビア② 「同窓会の活性化を目指して—平成27年度の同窓会の活動—」

特集 「戦後教育70年

学校の暮らしの中で子どもが見つけたこと感じたこと」

島根大学教育学部同窓会

# 我が母校 教育学部は今

—自らを高める学生の学びの姿—



定期演奏会



教育学部棟正面玄関



研 修



グループ協議



環境寺子屋の活動



クリスマスコンサート



三瓶祭



ビビットひろば

※P92に関連記事を掲載しています。

## —学びを支える教育研究施設—



総合情報処理センター-教育学部分室



ICTルーム「金魚鉢」



掲示ホール



多目的実験室



音楽練習室



健康・スポーツ科学実験実習室

## 附属学校園

### —教師力に磨きをかける実習の場—



教育実習



附属小学校



附属幼稚園



附属中学校



# 同窓会の活性化を目指して

## 役員総会 (6月13日)



小川巖学部長講話



河添達也  
教授講演

## 支部活動



大田支部交流会：教育講演会 (8月17日)



安来支部  
教研大会の支援  
(10月14日)



東京支部：総会・懇親会 (10月25日)



横浜支部：総会 (6月6日)

# —平成27年度の教育学部同窓会の活動—

## 学部ホームカミングデー・シンポジウム (10月11日)



島根大学ホームカミングデー



シンポジウム報告



シンポジウム交流会



懇親交流会

## 模擬面接の協力 (6月17日)



## 教育振興奨励賞授与式 (10月6日)



## 刊行物の発刊



会誌67号  
(H28・1月26日)



Leaf@同窓会 No.7  
(9月25日)

## 同期生会



30会〈昭和30年卒業〉  
(8月27日)



始まりの時〈昭和49年卒業〉  
(6月13日)

母校



# 教育学部附属小学校

『大手前』から『大輪町』へ

教育学部附属小学校は、明治7年9月13日、「小学校教員伝習校」として開校され、松江殿町にあった松江藩家老大野舎人の旧宅を学舎としていたが、その後校名、校地ともに何度か変遷し、明治33年「殿町大手前」に校舎が新築され新生「附属小学校」が発足した。昭和38年「大輪町」に校舎が移転新築され現在に至る。その間、師範学校・教育学部の教員養成機関として、主として教育実習を担当し、教師をめざす数多くの学生を育ててきている。



## 大手前校舎

写真は昭和10年10月3日、創立60周年記念式典が行われた大手前校舎校門付近である。戦前戦中は、毎日、6年生を先頭に隊列を組んで、週番上級生に敬礼をしてこの門をくぐったという。

昭和3年ごろの教育実習については、児童の思い出の作文に、「学級に3人位の配当で期間は10週間ぐらいであった。」とある。

## 大輪町校舎

写真は、大輪町校舎である。昭和38年に竣工されたが、竣工当時は学校の前の通りの東側は行き止まりで、その先は田んぼが広がっていた。この頃の教育実習は、4回生前期に行われていたが、後に3回生後期に変わっている。昭和43年はそれが変わった年に当たり前期・後期の両方で実習が行われている。期間は6週間で、人数は100人程度であった。



写真は、平成18年改修の校舎である。耐震工事に伴い、新しい教育に対応できる教室環境、安全を第一に考えた学校環境がつけられている。

今日の教育実習は、学部1000時間体験学修の「学校教育体験」において、4年間を通じ継続的・体系的に行われている。以前本実習と呼ばれた3回生の実習は、現在は前期・後期を合わせて5週間行われている。人数は、50～60人程度である。

# 目次



**カラーグラビア① 我が母校 教育学部は今**—学生の学びと教育施設—

**カラーグラビア② 同窓会の活性化を目指して**—平成27年度の同窓会の活動—

母校今昔 教育学部附属小学校

巻頭言 「教育」雑感……………教育学部同窓会副会長 齋藤 重徳 (2)

同窓会は今 「同窓会」を元気にしよう…教育学部同窓会長 有馬 毅一郎 (4)

教育学部の展望 教育学部の近況について……………教育学部長 小川 巖 (6)

## 教育学部最前線

教育学部の地域連携—音楽教育連携推進室の取り組みから—

教育学部教授 河添 達也… (10)

**特集** 戦後教育70年 学校のくらしの中で子どもが見たこと感じたこと… (22)

□戦中、戦後の混乱の中で…………… (22)

□思い出に残る人・風景の中で…………… (28)

□高度成長の時代の中で…………… (34)

□新しい時代の風の中で…………… (41)

第9回教育学部ホームカミングデー…………… (47)

□シンポジウム「地域で活躍する教育学部の卒業生と現役生パートⅡ」

・報告者・西村 昂亮・池田 舞子・山根 澄子…………… (48)

・コメンテーター・景山 良一・山根 伸子…………… (51)

□シンポジウムのあらかし・ホームカミングデー懇親交流会…………… (52)

第9回島根大学ホームカミングデー…………… (53)

私の研究紹介…………… (54)

教職回顧…………… (56)

**支部からの声**…………… (58)

第4回教育振興奨励賞決定…………… (85)

**専攻だより** —研究室はいま—…………… (67)

平成26年度島根大学教育学部卒業研究題目一覧…………… (93)

平成26年度島根大学大学院教育学研究科修士論文題目一覧…………… (100)

ただいま活躍中!!…………… (78)

続・グラビア① 我が母校 教育学部は今…………… (92)

## 近況報告

本部だより…………… (83) 有志会・同期生会だより…………… (86)

同窓会個人情報の保護に関する規程が制定されました…………… (102)

事務局より…………… (21)(66)(91)(104)(105)(106)(107)(108)

受贈図書紹介…………… (99) 表紙に寄せて・編集後記…………… (109)



## 「教育」雑感

教育学部同窓会副会長

齋藤重徳

本学部を定年退職して二年が経とうとしています。大学を卒業して公立中学校の教師となり、その後本学部の教員に迎えられ、数えること四十年を越す人生の大半を教育に携わってきたことになりました。長い年月を教育に携わってきたにもかかわらず、今なお教育とは何かを自問することがあります。

近年、新聞やテレビなどで無差別殺傷事件や殺人事件と言った凶悪な事件が報道されない日はないと言っているかも知れません。グローバル社会が急激に進み、外国人による犯罪も増えてきていることも事実ですが、未成年者が関係する殺傷事件、子どもが親を殺す痛ましい事件など、世間を震撼させる様々な事件の報道にいとまがないように思います。現在はストレス社会と言われ、社会のひずみが生み出した現象と言って片付けてしまうのでしょうか。犯罪を犯した加害者にも親がいる筈ですし、学校での教育も受けてきている筈です。教育はまずは親の「しつけ」と言ったことを核としながら家庭から始まり、次には学校あるいはその人を取り囲む社会によるところが大きいのと思っています。

「三つ子の魂百まで」といいますが、本当に家庭での教育が十分に為されているのでしょうか。先日、テレビのニュース番組で殺人を犯した二十歳過ぎの加害者の親がテレビカメラに向かって、「本人は二十歳を過

ぎており、責任が取れる成人ですから・・・」とコメントしながら被害者への謝罪の言葉は一切聞かれませんでした。この親は教養ある芸術家のようでしたが、此の親にして此の子あり、と思つたのは私だけだったでしょうか。

学校ではいろいろな教科―国語、社会、算数、理科―等の沢山の内容を毎日子供たちに教えていますが、その多くの知識はその人が生きていく上で無くてはならないものでしょうか。それら知識の獲得はその人にとって生きていく上で手段になることはあるでしょうが、学歴も無く知識もそれほどない人でも一家団欒の幸せな家庭を築いている人は周りにたくさんおられます。教育者も知識を教え込む単なる技術者であつてはならないと思います。此の親は、と思われる人も残忍な犯罪を犯す人も学校教育を受けている筈です。

教育とは何か。ある映画監督が「教育とは、人は一人では生きていくことができないことが分るところである」といった言葉を思い出します。教育は人の内面に訴えるもの、心を揺さぶるものであり、魂を作り上げていくという崇高な仕事であり、それゆえ教師は「聖職者」と言われる所以ではないでしょうか。

現職を離れ振り返ってみると、自分は果して教育者の一人であつたのだろうかと自問することしきりであり、教育は世の中を平和に導き、人びとを幸せにしてくれるものでなければならぬものと思つているこの頃であります。

〈齋藤重徳氏プロフィール〉

鳥根県浜田市出身 平成二十六年三月 鳥根大学名誉教授

(一財) 鳥根陸上競技協会 副会長

(公財) 鳥根県体育協会 常任理事